

「島のしくみ」レポート

工学部 情報生体システム工学科 1年

学籍番号 2514290788

山室 慧斗

今回、集中講義で初めて与論島に行きました。島という比較的狭い生活空間の中で、そこに暮らしている人たちがどんな生活をおこなっているのかを知りたいなと思い、受けることにしました。

講義を受ける前は、与論島という名前をきいたことがありませんでした。与論島に着いてまず思ったことは、暑いなと思いました。思ったよりかは、お店もあり、すこし驚きました。実際に買い物に行ってみると、やはり物価は、九州よりも高いなと感じました。特に野菜などは、高く感じました。与論島ではなかなか育てられないものなど、船を使って輸入しているので、多少高くなっているのかなと考えました。農業に関しては主にサトウキビ、サトイモ、インゲン、ニガウリなどを中心に成り立っているようだが、与論で最大の栽培面積を誇るサトウキビも台風の影響を受けやすく、現在ではTPP問題によって厳しい現状にあると思われる。台風が多いと農業をするにはむずかしいように感じた。ほかの作物を育てるには、面積的にも狭く輸入にたよらなければいけない現実がありました。これは、島にとって仕方のないことだと思います。

次に与論島の観光に関して考えました。観光客の推移を見てもわかるように、1980年ごろが一番のピークでそれを境に減少しています。原因を考えましたが、時代背景が主な原因だと思います。去年は少し回復しているのは、ヨロン人生ゲームや、TVでの宣伝の効果が大きいと思います。わたしたちが行ったあともTV放送で与論島について見ました。そういったテレビ放送を見て来てくれた観光客を何回も来てくれるようにするにはもっと与論ならではのものを作らないといけないなと思います。与論島は沖縄のとなりにあり、正直なところ私だったら与論島にいくなら、沖縄本島に行くと思います。沖縄のほうが魅力的なものが多いと思います。島の発展には、観光面がとても大きいと思うのでもっと観光面を伸ばしていけるような取組が必要だと思います。研修中にも出ましたが、ゆるキャラを作ってみたりしてみるのもいい

と思います。今はいらなくてもいいと考えるかもしれないのですが、やはりやってみなければなにもわかりません。熊本のかまもんも最初からこんなふうで大ブレイクするとは思ってなかったと思います。また、百合が浜を使ったイベントをやるのもいいかもしれません。今回、与論島にはじめていって見て、離島の生活で知らない部分が少しだけわかりました。ほかの離島にも行ってみたいと思いました。

読んだ本

・与論島の生活と伝承

著者名 山田, 實